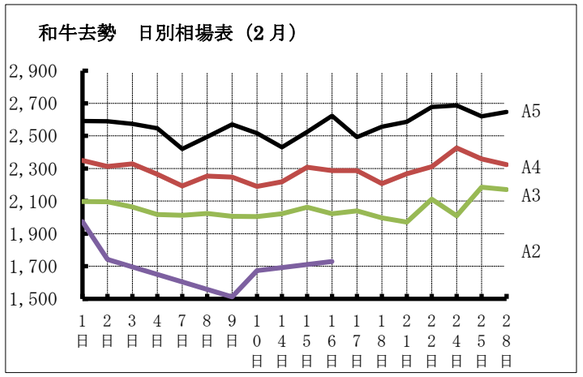
月刊しばうら

2022年 3月号

牛肉営業部

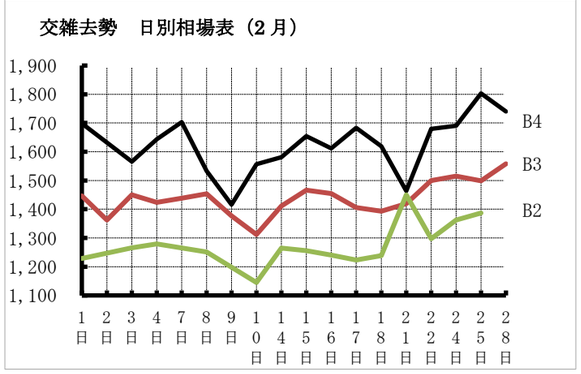
＜2月の相場動向＞

2 月は 1 年のうちで牛肉需要不振となる月であることに加え、オミクロン株の強い感染力により緊急事態宣言発出時以上の牛肉消費低迷となった。新型コロナウイルス感染拡大によるまん延防止等重点措置についても、全国 31 都道府県で 3 月 6 日まで延長されたことで外食需要不振が続いた上に、食品価格や原油価格の高騰による消費マインドの低迷もあり、食肉需要が著しく減退したことで、一部の品種・グレードを除いて前年・前月割れする結果となった。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,565 円	-135 円	95.0%	-74 円	97.2%
A4	2,284 円	-162 円	93.4%	-75 円	96.8%
A3	2,058 円	-170 円	92.4%	-93 円	95.7%
A2	1,784 円	-95 円	94.9%	-152 円	92.1%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,635 円	+10 円	100.6%	+11 円	100.7%
B3	1,444 円	-57 円	96.2%	-34 円	97.7%
B2	1,255 円	-93 円	93.1%	-74 円	94.4%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—
B2	962 円	+37 円	104.0%	-51 円	95.0%

＜3月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、1 月の輸入量は前年同月比 8.2%減の 4 万 402 t で、うちチルドは 20.8%減の 1 万 6,339 t と大きく減少、フローズンは前年同月比 2.9%増の 2 万 4,063t となった。特に冷蔵品は豪州および米国における現地価格の高止まりにより、大幅に下回ると予測されている。

農畜産業振興機構によると 2 月は 3.0%増の 3 万 8,400t、3 月は 11.7%減の 4 万 800 t で予測している。

輸入牛肉通関量		1月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	5,744	8,557	67.1%
	米国	8,595	10,432	82.4%
	その他	2,000	1,650	121.2%
	合計	16,339	20,639	79.2%
フローズン	豪州	10,391	11,794	88.1%
	米国	6,522	7,134	91.4%
	その他	7,150	4,449	160.7%
	合計	24,063	23,377	102.9%

出典：食肉速報　　単位：t

＜3月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による 3 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 98.2%の 8 万 8,200 頭で、品種別にみると和牛は 2.5%減の 3 万 9,000 頭、交雑種は 8.9%増の 2 万 600 頭、乳用種は 7.3%減の 2 万 7,100 頭と予測している。

東京食肉市場の 3 月のと畜頭数は 7,000 頭を予定しています。

＜3月の牛枝肉相場見通し＞

新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見通せず、18 都道府県ではまん延防止等重点措置が再延長となり、外食需要の回復が遅れることが予想される。また、景気の先行き不安や食品等の値上げもあり、牛肉の需要を取り巻く環境は益々厳しい状況が継続する見込み。

和牛については冷凍保管事業や輸出需要などによる下支えされた価格での展開、交雑種や乳用種については、輸入牛肉の価格が高いこともあり、一定の価格が維持されるといった展開の継続を見込んでいる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,450～2,800	B4	1,550～1,650
A4	2,350～2,450	B3	1,350～1,450
A3	2,150～2,250	B2	1,200～1,300
A2	2,000～2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2			

豚肉営業部

1 月の全国と畜頭数は、前年同月比 0.8%増の 142 万 9,661 頭。また、1 月の豚肉通関数量は 8 万 2,587t（前年同月比 23.9%増）と前年を大幅に上回った。内訳はチルドが 3 万 8,950 t （16.2%減）、フローズンは 4 万 3,637t（31.6%増）とそれぞれ大きく増加した。

2020-2021 年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
1	78,800	66,620	22,433	160,131	76,657	74,386
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
8	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
9	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
比	101%	124%	104%	96%	103%	100%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

1月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	19,277	120.4%	デンマーク	5,712	92.3%
カナダ	17,962	112.2%	スペイン	13,880	181.0%
メキシコ	1,737	112.2%	メキシコ	7,942	133.9%
			アメリカ	2,594	89.7%
			カナダ	2,945	154.2%
合計	38,950	116.2%		43,637	131.6%

単位：t

＜2月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1 日	67,100	498	461	846
2 日	68,200	510	455	873
3 日	69,700	481	449	726
4 日	64,700	490	456	887
7 日	68,100	502	454	715
8 日	73,400	500	469	942
平均	68,533/日			832/日

コロナウイルス感染症拡大により全国的に休校や休園が相次いでいる中、給食用の引き合いなどにも影響が出始めた。相場は上中価格差が開き上物価格は 500 円絡みの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
9 日	72,100	516	478	824
10 日	74,700	505	467	1,114
14 日	68,400	512	488	848
15 日	68,400	515	506	886
16 日	69,500	524	496	691
17 日	72,400	515	502	752
平均	70,917/日			853/日

まん延防止等重点措置が延長されたことにより、引き続き内食中心の需要となった。また輸入物の生産量減少や物流の遅れが深刻化している中、輸入物から国産物へシフトするケースも多くみられた。全国と畜頭数は連休前に 7 万頭を超えたが、北日本を中心とした寒波の影響などにより、出荷頭数は減少傾向となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
18 日	65,700	516	507	936
21 日	70,300	529	511	752
22 日	75,000	526	512	916
24 日	74,000	531	514	908
25 日	69,100	515	499	1,102
28 日	66,000	521	493	775
平均	70,017/日			898 日

全国と畜頭数は祝日で稼働日が少なかった為、7 万頭を上回る日が続いた。相場は 500 円を上回る底堅い展開となった。

＜3月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による 3 月の肉豚出荷予測では 144 万 4,000 頭（前年比 95.0%）と予測している。

また、当市場の 3 月集荷予定頭数は 1 万 7,500 頭、1 日あたりでは約 795 頭を見込んでいます。

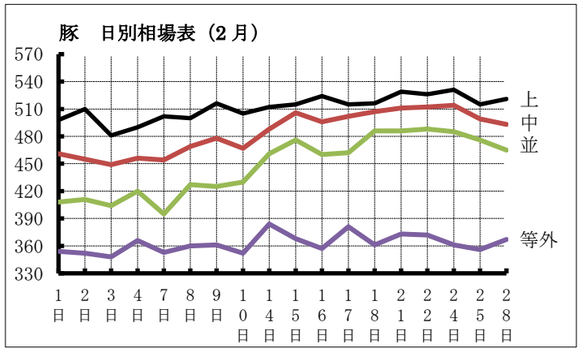
農畜産業振興機構によると 3 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 6 万 7,200t（同 97.5%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 4,300t（同 83.4%）、冷凍輸入量は 3 万 2,900t（同 118.1%）と予測。

冷蔵品輸入量は、前年の輸入量が北米からの入船遅れ等の影響から多かったことに加え、北米の国内需要の増加による現地価格の高騰等から、前年同月を大幅に下回ると予測する。また、3 ヵ月平均は前年同期をわずかに上回ると予測する。

冷凍品輸入量は、中国の買い付けが弱まったことにより相場が下がった欧州産の輸入量が増えていることから、大幅な低水準であった前年同月を上回ると予測する。同じく 3 ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する.

3 月は大きなイベントがないことに加え、春休みによる学校給食がなくなることにより、相場は軟調な展開となるが、今年はまん延防止等重点措置の延長により外食需要の低迷や、依然として現地価格の高騰、慢性的な入船遅れで不安定な輸入チルドの供給不足などにより、例年とは異なる展開となりそうだ。また、今後は東北や日本海側を中心とした寒波による増体悪化などの影響が出てくることが予想され、出荷頭数が減少傾向となれば相場にも影響を与えることも予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は 500 円前後、中物平均価格 470 円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127